

# 女性の立場から 経営体験

# 兩毛新聞

The Ryomo

発行所 (株)兩毛新聞  
〒326-0805 足利市巴町  
TEL 0284-21-1366  
FAX 0284-21-6066  
ryomo@river.sannet.ne.jp  
定価(税込み)月々約1500円(税別)

## トリコットと共に育った私(上)

### 創業のときも終結のときも

## 物凄いエネルギー必要

柳田欣一郎氏(柳田  
株会長)足利市通6丁  
目)が4月2、3、4  
日の3回、両毛新聞紙  
上に足利トリコット工  
業協同組合とトリコッ  
ト会馆のことをお書き  
になっていきます。

トリコット業者の娘  
として育った私はとて  
も興味深く読みました。  
物事は何も無いとい  
ろから始めることは勿  
論大変ですが、関わっ  
た人達や周囲の人達を  
納得させて終わりにす  
ることは始めることよ  
りも何倍ものエネルギー

1が必要だと思いま  
す。足利トリコットの  
幕を上手に降ろしてく  
ださった柳田氏はじ  
じめ、最後まで足利トリ  
コット工業協同組合  
(以下組合と略す)に  
携わって下さった方々  
に「ご苦労さま。あり  
がとうございました」と  
申し上げたいと思ひ  
ます。

組合は昭和22年10月  
に吉田孫三郎氏を初代  
理事長としてスタート  
しました。この年は天  
皇巡幸とキャサリン台  
風による大洪水があ

り、私は3歳でしたが  
昭和天皇に旗を振った  
こと、洪水の時はず  
に逃げたことを想ひ出  
します。

組合が発足する1年  
程前に教化会館(市役  
所の隣りにあり、女学  
校の旧校舍を移築した  
公民館の役割をした建  
物)で経編メリヤスの  
講習会が夜間3カ月に  
わたって開かれました。

新しい繊維産業を始  
めるに当たってだれも  
ないかと思えますが、  
新しい繊維産業を興す  
ことに重点がおかれ経  
営者となる人のための  
勉強会だったのでしょ  
うか。

つたので勉強が始ま  
たのです。我が家から  
は家業にするといいこ  
とで父だけではなく学  
生であった姉と兄も参  
加しました。7、80人  
の参加者の中、女性は  
中年のひと姉の2人だ  
けだったと聞いていま  
す。今考えると、戦前  
の銘仙の織手は女性で  
あったのに女性の参加  
者が少なすぎたのでは  
ないかと思えますが、

組合が正式にスター  
トする前後のことだと  
思います。市長の木村  
浅七氏、父とは工業学  
校(父はそのように言  
っていました)。繊維  
同業組合とずっと親し  
くしていた吉田孫三郎  
氏はじめ、吉澤邦太郎  
氏、三田禮三郎氏、殿  
岡利助氏などの組合に  
はなくてはならない、  
戦前からの市のトップ  
企業人がたくさん我が  
家を訪れて下さってい  
ます。柳田氏のお父様  
のこともよく憶えてい  
ます。私は両親が年を  
取ってからの姉兄たち  
と年の離れた末っ子だ  
だったので、お客様がお  
見えになると父の隣り  
にちよこんとおすわり

して接待役をしている  
気持ちでした。小  
学校入學まで続きまし

たのでたくさんの方々  
とお会いしています。  
余談ですが母の關係で  
お見えになった市川房  
枝女史にもお目に掛か  
っています。

来ると父がハンカチ程  
のトリコット生地(そ  
のころはトリコットと  
は言ってません)をお  
客さんの前に広げて  
「これが今度、足利で  
始める経メリヤスで

す。銘仙とはちが  
簡単にほどけませ  
全部ほどいて糸状  
たら100円差し  
ます」と言っ  
を差し出したので

# 論考

斉藤 ヒサ(旧姓:足立)

手縫い帽子教室主宰・足利市西宮町

学校入學まで続きまし

